常磐毎日

発行所
平市田町75
常磐毎日新聞社
電話(代表)2104番
2105番

賀正

平医師会
会長　鈴木正男
外会員一同

ライト浴びる公営バス問題

五市合併に結ぶ「諸橋公約」

〃年内には走る〃

当局側は見通し楽観

五市公営バスの運行は、運輸省運輸審議会における公聴会を待つばかりとなつているが、この公聴会は今春早々開かれるという明るい見通しにあり、計画通りスムーズに行けば今秋には運行開始ということになる。事務局では署名運動をはじめとして公聴会にそなえての公述人公募、さらには県議団へ協力を呼びかけるなど最後の猛運動を展開するとともに「免許確保には絶対自信がある もし却下されれば獲得するまで運動を行う」との態度を示している。常磐交通が公営バスを迎えて如何なる態度をとり、どのような対策をたてるかは別問題として、公営バスが市民の足の便はもちろん五市合同の連携を一段と強めるならば、その意味において伸びゆく常磐地区の総合開発に大きな利益をもたらすことができよう。そこで公聴会—許可の終着駅に向つてばく進する公営バスが現在までたどつてきた経過、今後の見通しなどにスポット・ライトを当ててみよう。

当初三十台を購入

路線の大綱を決める

五市公営バスの音頭をとつたのは平市で昭和二十九年豊間町と高久夏井、草野、赤井の一部など一町四カ村を合併したさい、市営バスの実現が合併条件となり三十年四月の市長選のさい市政スローガンとして諸橋市長がハツキリ公約した。そこで同年六月市議会に市営バス事業特別委員会が設置され金古政流委員長ら九委員が選出された。その年の十月、九州を除いて全国の先進都市を各班に分れ視察した。この結果民間バス会社とともに足のサービスをはかる市営バスが各都市の産業文化発展に大きな力となつていることが判り、衛星都市としての四市と手を組み公営バスを運営して、いわゆる総合都市として共存共栄の実を上げようということになり、試案をつくり検討を加える一方、四市に呼びかけた。このため四市では三十一年十二月に各都市を視察、ここでも試案以上に発展している姿をみて急速に公営バスの実現に歩み寄りをみせ、三十二年五月「石城五市公営交通事業組合」を設立、直ちに設立申請が五市連署で県に提出され即時認可された。これによつて組合では本格的計画に入り三十三年一月免許申請書を福島陸運事務所を通じ運輸省に提出した一市単独から五市公営という全国的にもめずらしいケースであることからかなり有望視され、当時は一月申請—四月に聴聞会—八月に公聴会を開いて一気に認可に持ち込み、早ければ三十三年十月、おそくも三十四年早々には運行という楽観的観測であつた。ところが予想に反して聴聞会すら開かれず全く五里霧中のうちに再び三十四年の市長選を迎えた。このためせつかく盛りあがつた公営バス熱もうすれ、反対に当局に対する不審が高まつてきたのだ。このような経過の中で当局は中央などに強力な運動を続けた最中の三十四年六月、仙台で待望の聴聞会が開かれた。この聴聞会に大きな期待をかけていただけに当局は腕を射たとばかり、残る公聴会の準備をはじめた。それにはまず地区民の声が大きいとして昨年九月中旬から十月一杯にかけて賛成署名運動を展開したが、事務局の予想に反し続々署名が集まつて対象二十六万五千人に対して十二万二千人の署名となつた。さらに公聴会の早期開催を予定して賛成公述人を広く石城郡内の一般市民から募集して体制を整えるほか、県議団に対して公営バスの計画と必要性を説明して協力を呼びかけた。

以上が昨年までの公営バス問題の経過で、いわば平の市営バスが常磐開発の夢を乗せて五市合同の公営バスに大きくふくらんだわけでことしは公聴会—認可にこぎつけようとしている。公聴会であるが事務局の見方としては仙台陸運局が申請書を十二月末に本省に回しているので、今春早々には開催されるものとみて、早くて三カ月、遅くても六カ月後には許可になるというのが過去の例であるので、秋には常磐交通と肩を並べて市民の足となり、運行されるという明るい見通しにある。許可に対して当局は「免許確保には自信がある もし却下された場合はさらに検討を加えて許可されるまで申請を行う覚悟である」との強い態度に出ているので、今後の運動いかんに大きな期待がかけられることになる。

しかし公聴会開催までこぎつけた公営バスの前途は決して楽観を許されないものがあるとともに当局が考えているほど簡単にハツピーエンドにならないだろうと見るむきも決して少なくない。というのは浜通りのバス運行を一手に引受る常磐交通がホ字路線の引上げやサービスの向上等で強力な反対運動を行つている。既に常磐交通の運行する他の路線以外に公営バスの運行する他の路線がないとすれば同じ路線を公営バスと常磐交通が後になり先になり走ることになるが二百数十台を有する常磐交通の地盤に割込む形の公営バスが当初の皮算用通りに純益を上げ得られるかと実際面で難行するだろうとみるむきもある。これは許可になつて事実上運行する場合の問題だが、これについて事務局では「決して常磐交通と競争しようというのではなく、あくまでも平市民の足の便と常磐地区の産業、文化発展を図るのが目的であるから、常磐交通とでは太刀打ちできないという考え方自体が間違つている」との意志も表示しているのだ。いかにせよ市民はこれら諸問題は別として一日も早く公営バスによる足の便をはかつてほしいというのが最近巷間から聞かれる声である。設備計画内容をのぞいてみよう。設備資金八千八百万円（うち運転資金三百万円）自動車を三十三輌購入平営業所に二十五輌、磐城営業所に二輌、勿来営業所に四輌、四倉営業所に二輌を配置するほか、営業所が前記四カ所におかれる。運行系統は①片浜循環線（平—内郷—常磐—磐城—平）四一・四粁、②勿来線（平—内郷—常磐—磐城—（泉）—植田—勿来—平潟）三一・七粁③川平線（平—緑—川平）八・七粁④高野線（平—滑—宮—高野）一二・八粁⑤好間線（平—好間）七・八粁⑥小川循環線（平—小川郷—赤井—平）二三・五粁⑦四倉線（平—草野—四倉）一二・七粁⑧夏井線（平—夏井—滑津橋）一〇・七粁⑨小名浜線（平—上矢田—御代—小名浜）一五・二粁⑩勿来市内循環線（植田—仁井田—川部—錦田—勿来駅—安良町—植田）二六・二粁の十系統一九〇・七粁を一〇七回運行して三百十一万八千円の益金をあげようという。

今年の選挙　㊤

三代・志賀の争い！

宿命的な磐城市

昨年の選挙当り年で大部分の市町村では首長の顔が変つたが、ことしは磐城市長選をはじめ遠野、四倉の両町、三和村と四つの市町村長選が行われ、昨年の〃当り年〃とまではいかないにしても、一月早々からフタ開け？する三和村長選を皮切りに、小さな選挙ブームをまきおこすわけだ。それに一月から二月にかけて行われるのが大半というから〃新春に花開く選挙絵巻〃になりそうだ。以下は今春に予定される市町村長の選挙展望である。

磐城市　三代義勝現市長と志賀要平氏の宿命の一騎打ちになる公算が大きい。

三代、志賀両氏は四年前の選挙で僅少の差で三代市長に凱歌があがつたが、この選挙は故立花前市長と志賀氏とのころからの延長戦という見方をくだす人さえあるくらいで、志賀氏のバツクだといわれる旧小名浜町時代から一大勢力を維持してきた清水屋と町政刷新を叫ぶ市民層の盛りあがりとが衝突したものともいえる宿命的な選挙戦とまでいわれた。このため現市長派と清水屋系とが、ことごとに対立し、このことをよく物語るのが市議会の対立である。

三代現市長は故立花前市長の遺志をつぎ、東北の門戸として開発途上にある小名浜商港の整備と、これに連なる工業都市建設に任期を東奔西走、工業都市建設に席のあたたまる暇のない活躍ぶりで、就任当初に〃漁業家市長〃といわれながらも、市長としての貫録をつくつてきた。とくにハラの市長というニツクネームをもつほど体当り的な市政運営から〃構想の三代〃となり〃磐城の三代〃と五市長間でもAクラスにのしあがつた。こうした反面、各種団体にはマンベンなく顔を現わし、三代株が日ごとに上昇しているなどで次期市長選には取りまきとしても絶対出馬を進言しており、ご本人も出馬のホゾを固めているという。

一方、好敵手の志賀要平氏は町長一期のほか、長くから小名浜消防団長として隅から隅まで顔を売り、それに〃小名浜生みの父〃とまでいわれた小野晋平翁の血筋を受けて、毛並のよさはハマ随一の定評である。志賀氏は戦後、町長在任一年ほどで戦時中の在郷軍人分会長の肩書きがたたつて追放にひつかかり、その後二十九年一月の選挙で同系の水野町長からバトンを受けついで立候補、故立花前市長と争つたが惜しくも敗れ去り、同じ年の三月に江名、泉、渡辺、鹿島四カ町村と合併、市制施行による五月十日の選挙でも故立花前市長と一騎打ちを行つて敗れ、そして三代現市長と連続三回出馬して三回とも敗れ去つてしまつたという経歴がある。このように市長の座に対して、ネバリ強さで対抗を続けてきた人だけに、一部の市民からは強く推されているといわれ本人も出馬の意志だといわれている。

選挙がおこなわれるのは五月末か六月はじめの公算が強く、五月末は農繁期をひかえているため六月説が強くなつている。期日はともかく、三代現市長と志賀氏との一騎打ちが再現されると市は真二つに割れる可能性があり、小野県議は志賀派に間違いなく、このほか臨港鉄道社長の浦田文二郎氏や水野良吉、野崎真行氏ら旧家、実力者が顔をそろえて総力を結集、〃三代市政打倒〃をめざすことになる。

こんどの選挙は三代市政四年間の実績に対する支持層がはつきりすることにもなり、〃三代構想〃を実現させるためにも三代現市長としては絶対あとには引けない選挙ということになり、文字通り市を二分しての一大決戦はまぬがれぬところとなろう。

また、この選挙には小野饒一、大井川正巳という両県議の勢力争いも表面化し、選挙戦とかみ合つて火花が散るし、社会党も分裂後初の選挙に独自の候補を出すか、四年前三代市長に要求した項目通りに、また三代支持に踏み切るか分裂後初の試練にもなるわけである他に輸入候補を入れ、排他的の強いハマのカベを破るか、いろいろな副産物？がつきまとつて興味あるものとなるようだ。

記念品と講演

磐城市の成人式

磐城市の成人式は十五日午前九時から小名浜一小講堂で行なわれる同市の成人は市の調べでは八百八十六人にのぼり、当日は市長から成人証書と記念品がおくられ、このあと郷土の先輩として日本新聞協会事務局次長として活躍している江尻進氏（生家は小名浜町、江島金物店）の記念講演が行なわれ青年会と婦人会の心尽しの昼食があつて午後零時半散会の予定。なお成人の日を記念する第三回市内一周駅伝は午前十時から一般、高校、中学校の各チームが参加して小名浜公民館から江名公民館までの七区間、全長三十四・八キロにわたつて行なわれる。

私は女房役

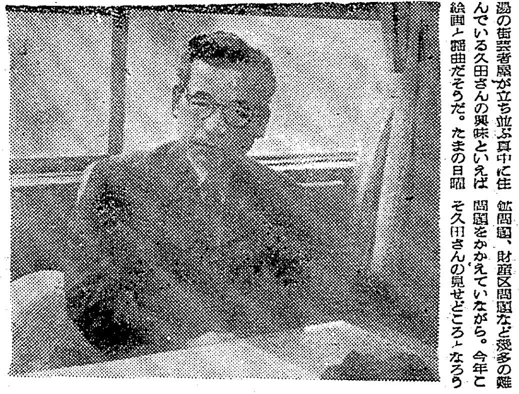
あつさりした性格

常磐市　久田正

昨年佐伯助役からバトンをタツチして助役の椅子についたばかりの一年生といつたところ。久田助役は明治四十四年三月常磐市の三函に生れ磐城中学校（磐高）を卒業して東京大島の砂糖会社に勤めながら苦学、打ち続く不景気の嵐の中で苦労して卒業、同時に福島県庁入りし消防災害課長、相馬、白河の地方事務所長をへて昨年十二月故郷の常磐市助役になつたという経歴の持主だ。社会党市長の磯野さんとは党派別にはまるつきり違つているし性格的にも違うようだが個人的にはよき友達といつたところ。助役就任について市長から「おれの街に来て一働きしてみる気はないか」とくどかれてあつさりオーケしたというだけにもの事にこだわらない明るい人だ。水害の時などは自から水害地に出かけ、ゴム長でジヤブジヤブかけまわり、人の、ことはどんな小さなことでも耳をかすという。

助役就任以来、炭鉱不況に追い込まれいち早く温泉開発など難問題に取組み活躍している。まだ幾多の難問題も残されているが、青年時代から鍛えたねばり強さと、持前の健康にものをいわせてバリバリヤであるから仕事の方でも市長のよき女房役といつたところ。

「柔道四段の腕まえだからね…」と彼を知る人はいうが、それだけでなく「どうしたら衰微する炭鉱街を再建できるか」と久田さんの斗士がそうさせているわけだ。



長い役人生活から急に政治に足を突込んで年月も浅く、本当にウデをみせるのは、これからだが、生れた故郷は恋しいですね—の一言からも郷里に骨を埋める覚悟の体当りとみるべきではないだろうか—。

湯の街芸者屋が立ち並ぶ真中に住んでいる久田さんの興味といえば絵画と謡曲だそうだ。たまの日曜にはいつも野[illegible]を相手に謡曲の練習で自から静かな生活環境をつくろうと努力している。

静かな雰囲気のなかで常磐市百年の大構想をめぐらせているのだろうが。しかし、謡曲の上達のように市政はままになるだろうか。炭鉱問題、財産区問題など幾多の難問題をかかえていながら。今年こそ久田さんの見せどころ」なろう

今年の郷土の二大行事

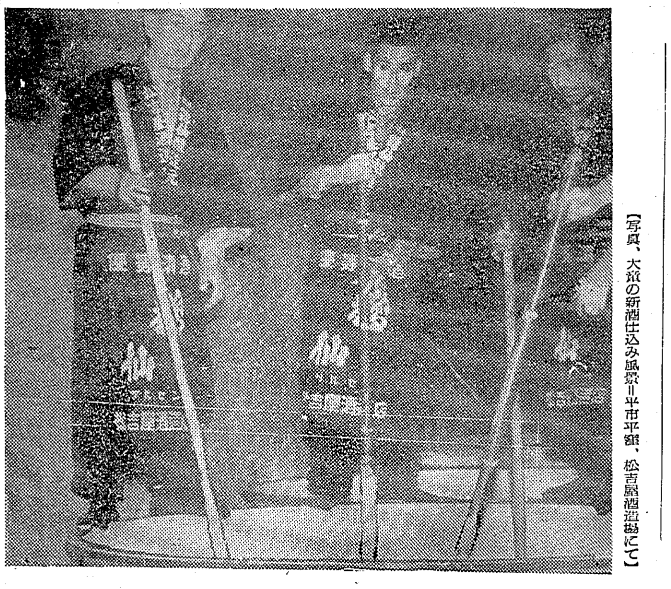
老中就任百年祭

平城主の安藤対馬守

幕末の政治家、十代平城主安藤対馬守信正公「老中就任百年祭」が一月中旬盛大に行われる。安藤公は文政二年、平藩主安藤氏十代、平五万石の城主として生れ、嘉永四年（三十三才）寺社奉行、安政五年（四十才）若年寄の要職に就した。万延元年(西一八六〇年)正月十五日、四十二才で老中に抜きされ、伊井大老の後を継いで幕府の首班となつた。この年、アメリカではリンカーンが十六代大統領に選出されている。この間にあつて幕末の難局に際し外交、内政の最高責任者として、平和親善外交を唱え、内政において公武合体を図り「皇女和の宮」の降嫁を願うなど日本の進歩発展に努力した。なお信正公の銅像は太平洋戦争中供出されたが、再建期成同盟会が中心となり再建、花の四月に松ガ岡公園に雄姿をみせる。

平市中心に全国学校保健大会

第十回全国学校保健研究大会は本年秋、石城、平地区の各会場で盛大に開催される。大会の目的は教育基本法や学校保健法に定められた児童、生徒の保健充実振興をはかるためのもの。参集会員は医師歯科医師、薬剤師、教育行政担当者、学校長、保健主事、養護教諭PTAなど二千数百人で、研究討議、研究発表が行われる。また東北各地の観光地、史跡なども視察する。



【写真、大童の新酒仕込み風景＝平市平窪、松吉屋酒造場にて】

新酒の仕込み

28工場一斉に

石城地方の新酒仕込みは昨年より一週間早く今年一月中旬ころできあがつて、梅の二月末か三月はじめころには香も豊かな新酒が市販される いま石城地方には平市平窪の松吉屋酒造店など二十八工場では、朝早くから大童の仕込み風景である。

ことしは原料米が前年の一七％増えたが、アルコールの添加量を減らして精米歩合をあげる、いわゆる濃度と品質を高めることになりそれでも新酒は前年より一〇％増えて百九十八万リツトル（約一万一千石）の製造量を見込んでいるとくに今年は一月中旬ころできた新酒と古酒とをかみあわせて独特の味を出し、会津酒に対抗しようと意気込み、地元消費を伸ばしながら銘柄が注目されてきた東京市場へは三五％の進出計画をもつなど張切つている。

新春の出初式

平消防団　ダルマ落しなど

平消防団、平消防署恒例の新春出初式は六日挙行される。当日は午前六時半集合、七時から子鍬倉神社で無火災祈願を行つたのち、八時半から市内目抜き通りなどでカケ声も勇ましくハシゴ乗りの妙技を披露、午後からは三十米道路でダルマ落しも行われる。

昭和35年　謹賀新年　1960年

産科
婦人科
齊藤医院
斉藤正雄
平市南町　電二九〇二

内科
小児科
後藤医院
後藤全久
平市古鍛治町　電三〇三六

東部瓦斯株式会社
平事業所
所長　津金保教

平運輸株式会社
平市禰宜町　電話（代）三一四七

平料亭組合
組合員一同

三菱ふそう建設機械代理店
株式会社　スピイデー自動車商会
取締役社長　大内弘
平市正月町　電二四九〇・二三七〇

株式会社　TSA　平工製作所
取締役社長　戸部光衞
電話（平）四二八五・五七一七・五七一八

平市金融団

平地区米穀卸売
協同組合
理事長　片寄保

社団法人平医師会付属
平准看護婦学校
平市南町　電二三〇七

温泉誘致に動き活発

戦国時代さながらの争奪

石城地方の観光発展は一口に温泉街の開発にかかつている―とは昨年行なわれた観光診断の勧告であるがこの勧告に刺激されたように平、磐城両市では温泉誘致運動や常磐市のヘルスセンター建設計画など温泉シーズンを迎えて活発な動きをみせ、さらに今春から実現の方向に積極さが加わることが予想される。こうした動きに対して既業者である湯本温泉や内郷ヘルスセンターが反対、阻止に懸命で、実現までまだかなりの道のりがあるようだ。そこで戦国時代を迎えた温泉開発にともなう動きをさぐつてみた。

各市、平の動行に注目

観音山にヘルスセンター誕生か

平市をふくめた石城地方は常磐総合開発が順調に進められている反面、観光面においては他地区より遅れている。そこで常磐地区観光連盟では昨年十月二日「常磐地区の観光開発はいかにあるべきか」と題する座談会を開いた結果、先決問題として温泉開発にあるという意見に一致した。そこで常磐市では新たに開発課を設け市内白鳥地内に莫大な予算を投じて船橋ヘルスセンターをしのぐ大温泉街の建設を計画した。ところが十月二十九日常磐市商工会議所が、「石炭不況により、五万人の市民が安住できる都市にしようとしているときに炭鉱が白鳥地内にこうしたヘルスセンターを建設することは時期尚早である。常磐炭砿が放流している湯は湯本温泉街に引湯して温泉街を拡大するべきである」という要望書を市当局と財産区に出した。

しかし市側はヘルスセンターの候補地を関船地内と観音山に決め、温泉開発に乗り出し、負担金問題では財産区に助力を申入れ今年中に毎分八百立方メートルの湯を予定敷地まで引湯しようということになり、すでに昨年暮から実地測量に踏み出しパイプ管の埋立て工事に着手している。市が計画しているヘルスセンターとは温泉プール、ゴルフ場や児童遊園地、自然公園のほか娯楽、休養施設等含む構想の基に将来は湯本温泉旅館組合とタイアップして一大温泉街の出現をねらつている。

また内郷鉱廃止にともなう、不況対策として御厩地内にヘルスセンターを建設した内郷市は連日、石城地区はもとより県内外の観光団と湯客が押し寄せ、昨年四月増築して大広間を除く十二の座敷は大盛況を見せ、とくに土、日曜日などの休日はせつかくの申込みにも応じられないという状態である。

昨年の暮はさらに増え十一月中には一万八千八百余人の入浴客を数え、売上金額は二百七十八万六千円と前月をはるかに上回つている。

団体客も九月に比べると三十三パーセントの増を見せ、わが世の春といつたところ。同市にはヘルスセンターのほかに高野温泉と建築中の国鉄保養所があり、完成したあかつきには湯本温泉をしのぐ温泉街になるだろうという話。温泉ブームの波にのつた常磐地区は各市とも温泉誘致運動に活発だ。

常磐、内郷を除いては平市が温泉利用特別委員会をつくつて市街地区に引湯して温泉街をめざして内郷市に分湯の運動をしている。

しかし新川に放湯している常磐炭砿の湯を平市に引湯することを交渉したが内郷市は湯本財産区との関係があるとしてしぶつている。さらに平市は先月強口委員長らが出県、鶴川河口課長、黒川総務部長らに対し見解をただしたが、県首脳部の間でも温泉問題に本腰を入れているので明るい見通しにあるという。こうした平市が温泉の引湯問題で積極的な動きを見せているのを知つた常磐市はこれに重大関心を持つて温泉対策委員会などを開き「石炭界不況のドン底にあり失業者が続出、生活保護適用者の急増で市の財政的影響は大きい。こういうときにあたつて他市に湯を持つていかれては…」と大あわて、さつそく磯野市長らが出県、温泉の第三者利用に反対する一方、内郷市にも御厩温泉の第三者利用に反対するよう共斗の申入れをした。

平市も引湯は市政振興の重要施策にとりあげているため、分湯が不可能となつた場合は独自の立場でボーリング探湯をすると強い態度だ。こうしたときに磐城市も温泉誘致問題を検討している。このように常磐地区は温泉開発をめぐつて、それぞれの立場から乗り出し、温泉の誘致問題は注目を集めてきた。石炭不況の中にある常磐地区の将来は立地条件からみて温泉を中心とする都市計画をはかるべきだとする声が高くなつてきており、各市に課せられた最大の温泉誘致問題が、どのように発展し、どのような終着となるだろうか。

煙草節約して寄付

感心な渡辺さん

新しい年を貧しい人も明るく楽しく迎えられたら…とタバコ代を節約した金をそつくり寄付した一消防吏員が、市民の話題となり感謝されている。

勿来市植田町金山勿来消防署勤務渡辺勇平さん（三四）は昨年七月蚊取り線香の空箱を利用した貯金箱をつくり、一カ月に四百円以上もタバコ代に浪費していた金の何分の一でも貯金し、年末に貧しい家庭に贈る計画をたて一日一箱から一箱半もすつていたタバコの本数を毎日少しずつ減らしてその分を貯金箱に入れることを習慣にした。最初の一、二カ月はタバコの本数を減らしたことによつて苦しい日が続いたが、正月を楽しく過せない人がいると思うと苦しさも忘れ弱い心を元気づけてきた。そんな日が何度かあつたが、いつの間にかタバコを吸う数が段々少なくなり吸わぬ日も一度や二度ではなかつた。渡辺さんは市の消防署が出来ると同時に勤め、五人を扶養する人だが、一人だけの稼ぎでは楽な生活もできなかつたが、自分よりも貧しい人がいると思うと、じつとしていられずつい貯金箱に手を延ばすのだつた。そうして五カ月経た十二月中旬自家製の貯金箱を植田公民館に依頼して勿来市福祉事務所に寄託した。貯金箱には十円玉を頭に五円、一円など入りまじつて一千円が入れられてあつた。勿来福祉事務所では早速市内の貧しい家庭に配分した。この話は街中にひろがり新年に咲いた美談として各関係者の胸を強く打つたが渡辺さんは三十五年の一月からもこの貯金は続けますと微笑みながら語つている。

ふるさとの正月

木曽

夜明に豆殻の迎火

平市役所勤務　熊谷　敏

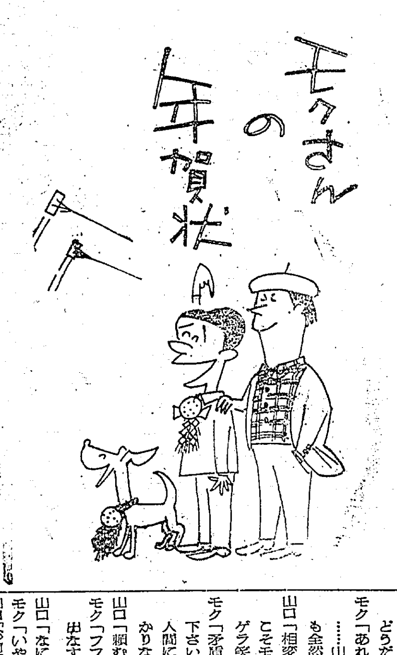
駒ケ岳、茶臼山をはじめ千曲川、〃木曽のナカノリサン…〃と歌で名高い木曽川、天竜川に囲まれた長野県下伊那郡川路村でむかえた子どものころの正月はなつかしい〃かげか柳か勘太郎さんか…〃と歌にまでなり、股旅姿で名をはせた伊那の勘太郎出身地だけに、正月の娯楽もまた威勢がよい。正月七日頃から各部落ごとにトリ小屋を作つて各戸を回り、ドンドン焼の松飾りを集め、付近に建てた高さ三十尺もある丸太の囲りに〆縄で結んだうえ幣束をつけた番傘を丸太の頭に取付ける。これが部落のシンボルとなつて、幣束争奪戦を十四日夜までの丸三日間つづけるものだが、争奪戦は朝方、相手のすきをみて幣束を盗み合う。発見されると殴り合いとなり、トリ小屋に帰ることもできないほど。このため五、六人が一団となつて盗んでくる。盗まれた部落ではこれを取返しに夜襲をかけるなど、寝食も忘れての争奪戦をくりひろげるもので、部落の幸を祈るために若武者が命をかけて守り抜くという殴り込み以上の楽しさがあるという。

十四日の朝、東のしらむ頃には一せいに豆がらに火を付けて明方の天を染め、日の出ころには各家庭から切餅を持ち寄つて、棒の先につけて焼いて、火のついた松の燃えきれと餅を火災除として屋根の上にあげ、窯のたき付とする伊那地方独特の習慣である。

朝のゾウニが終ると竹を割つたささらを手に背中には袋を背負つて部落中の玄関前で悪魔払を唱しながら歩くのも行事の一つとなつている。さらに青少年は〃ホーホホーホ、ホンヤリサマヲンバカデイズノ国ニヨベレテ跡ノエオヤカレタ、ホーホホーホ麦の鳥モホーホアワノ鳥モホ一ホ伝染病モホーホ〃と歌いながら家中の悪魔を追つてその家の祝酒、餅等をもらい、宿に集まつて煮炊食して正月の楽しみを語り合うことも、この地方ならでは味わえないことだろう。

モクさんと山口太一の

新春対談



山口「やあ、お目出度う!!」

モク「オメレトウ……」

山口「なんだい、その挨拶は?」

モク「だつて僕はそんなにオメデタク出来ちやいないんだ」

山口「うそをつけ!万人の認めるところだぞ」

モク「カツクン!!」

山口「ところで何才になつたんだい?」

モク「昨年二十三だつたから今年は二十四てとこでしよう」

山口「それにしてももう少し他人に笑われない人間になつたらどうだ」

モク「あれ、あんな事言つてらア……山口さんの漫画なんか誰も全然笑いませんよだ」

山口「相変らず口が悪いな、今年こそモクの奴をみんなにゲラゲラ笑わせてみせるよ」

モク「矛盾した言い方をしないで下さい。さつき、笑われない人間になつてくれと言つたばかりなくせに……」

山口「頼む!!笑われてくれ」

モク「フフフ、とうとう折れて出なすつたネ」

山口「なに?」

モク「いや、こつちのことで…」

山口「お前、婚約したんだつてな」

モク「えゝ、すみ子さんとです」

山口「結婚なんて、どうしてする気になつたんだ。結婚は人生の墓場だと言うのに……」

モク「ふん、都合のいい事ばかり言わないで下さいよ。山口さんが漫画のタネが切れたので勝手に婚約させちまつたんじやありませんか!」

山口「それにしても、あまりズノボセちやいけないよ」

モク「そんな事より僕の頭なんとかして下さいよ。これじや子供つぽくて全然モテやしない」

山口「ぜい沢言つちやいけない。すみ子さんにうんとモテるように描いてやるよ」

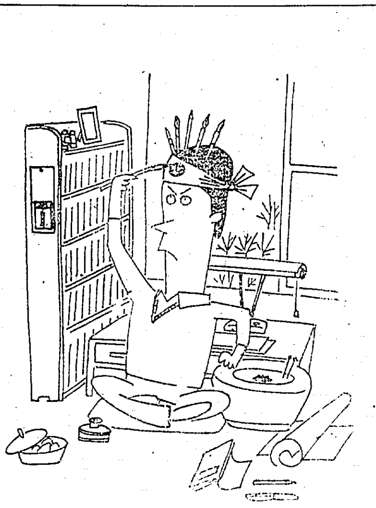
モク「いやですよ。もつと沢山の女性にモテたいんだ」

山口「なまいきいうな!!」

モク「あツ、そうそう、すみ子さんと会う約束なんです。すみませんが、じやこれで失礼……」

モク逃げるようにして去る

山口「あのような非常識な人間で恐縮ですが、どうか今年も、モクの奴を可愛いがつてやつて下さい」



私も今年こそは〜 がんばりきつております。

どうかよろしく……　山口太一

ねずみ害の一掃

一月にコンクール

浜通り公衆衛生協会、浜通り各保健所などが主催する〃第一回浜通りねずみのいない生活コンクール〃は一月十日から二月十日までの一カ月間、浜通り各市町村で行なわれる。

ねずみが人間におよぼす害を少なくしようとねずみの駆除を行ない、ねずみのいない生活を実現しようというもので市町村の部で最優秀賞、優秀賞各一カ所と、組織の部で最優秀賞一カ所と優秀賞八カ所を表彰する。

このため平保健所では目的達成のため啓蒙運動に乗り出し十分な普及につとめると同時に地区衛生組織（保健委員会、公民館、婦人会青年会、児童生徒会など）にも協力を望んでいる。

三万四百人をこす

磐城の有権者

明年五月か六月に市長選挙を迎える磐城市では基本選挙人名簿を整理していたが、去る二十日現在の同市有権者数は三万四百六十七人（男一万四千六百二十一人、女一万五千八百四十六人）となつた。地区ごとの内訳は▽小名浜…一万七千二百九十七人▽江名…五千五百二十八人▽泉…四千九十四人▽玉川…一千二百九十一人▽鹿島…九百四十八人▽渡辺…一千三百十七人となつている。

昭和35年　謹賀新年　1960年

平市議会議員
金子松男

常磐炭礦福島県販売株式会社
取締役社長　阿部政右衛門
平市田町　電(代)二一二三七

平市議会議員
矢吹大一郎

ユタカ建設工業株式会社
平出張所
所長　佐藤房次
平市才槌小路電三二一七

平市消防団
団長　岡田政次郎
副団長　藤倉武雄
〃　塩　儀助
〃　片寄周平

好間商業協同組合
理事長　森永太郎
専務理事　飛田清吉
常務理事　鈴木重衛

福島県建設業協会
石城支部
支部長　荻野右吉
副支部長　渡辺　毅
〃　川和徳一
理事　長谷川常吉
〃　強口金七郎
〃　草野道人
監事　岡田不二
〃　西山直次
外協会員一同

レストラン　カイカ
平市田町　電二二五〇
割烹　開花
平市田町　電五四六八

神谷薬品株式会社
平市田町　電四三三一

平芸妓芸妓屋組合
組合員一同

内科 小児科　高久医院
平市田町　電2513

磐城通運株式会社
取締役社長　斎藤昌平

平旅館組合
組合員一同

石城酒造組合
理事長　古川伝一

内科 小児科　三井医院
三井五郎
平市田町　電二六一五

平電報電話局
局長　長沢一松

平鉄工業協同組合
理事長　関口美久
専務理事　乳井文治
主事　小橋正夫

福島県クリーニング環境衛生同業組合
石城支部

株式会社　家具のデパート　丸ほん
本社営業所　平市三丁目十六　電(代)三一〇七
工場　平市新川町　電四四一六
椅子部　平市小太郎町二の三

平地区食肉商業協同組合
組合長　深谷喜八
副組合長　大塚武雄

合名会社　緑屋牛肉店
代表　大塚駒太郎
本店　電話二五三九
支店　電話二七九四

美容　研美院
結城　輝
平市中央通り電三三四八

環境衛生同業組合
平美容師会
会員一同

尼子タクシー
平電二一七五・二一七六・二六四〇
好間営業所　電五三七二・五六四七

謹賀新年
昨年中は格段のお引立を頂き厚く御礼申上げます
昨年十一月二十七日左記の新会社を設立致し来る三月一日合資会社吉田弥十郎商会を吸収合併致すことに相成つております
今後共何卒従来通り御厚誼御引立てのほどお願い申上げます
昭和三十五年元旦

四倉町新町七六　電二五
印花かつを製造元漁業
△印ウロコ水産株式会社
取締役会長　吉田弥十郎
〃社長　吉田新平
専務取締役　吉田新一